

Cisco Video Communication Server CE1100 アプリケーション

インストールガイド

初版：2015年11月

X8.6.1以降

はじめに

このマニュアルについて

このマニュアルでは、ビデオ ネットワークに Cisco TelePresence Video Communication Server CE1100 アプライアンスを設置する方法について説明します。次の情報が掲載されています。

- 設置の準備。
- ハードウェアの設置。
- 初期設定の実行。
- インストールに関するトラブルシューティング。

Cisco VCS アプライアンスについて

このマニュアルで説明する Cisco VCS アプライアンスは UCS C220 M4L をベースとする CE1100 です。このアプライアンスの設置に関する詳細については、[『Cisco UCS C220 Server Installation and Service Guide』](#)を参照してください。

このアプライアンスには、Cisco VCS ソフトウェアがプリインストールされており、必要に応じてアップグレードできます。

このアプライアンスは Cisco VCS のバージョン X8.6.1 以降をサポートしています。

注：銅製 SFP を使用する場合、ユニットは 150 を超えるトラバーサル コールをサポートできません。追加のトラバーサル コール用のオプション キーをインストールしている場合でも同様です。

表 1：このアプライアンスのコンポーネント

項目	パート	数量
シャーシ	UCS-C220-M4L	1
プロセッサ	UCS-CPU-E52637D (3.5 GHz/4 コア - ハイパー スレッド)	2
RAM	UCS-MR-1X162RU-A (16 GB)	2
ハード ディスク	UCS-HDD1TI2F212	2
オンボード SAS コントローラ	UCSC-MRAID12G (Cisco 12G SAS モジュラ Raid コントローラ)	1
NIC	N2XX-AIPCI01 (Intel X520 デュアル ポート 10 Gb SFP+ アダプタ)	1
	EXP-10GSFP-SR (10 Gb SR ファイバ SFP)	2
	EXP-1GSFP-T (1 Gb 銅製 SFP)	2
PSU	UCSC-PSU1-770W および電源コード	2
TPM	UCSX-TPM2-001 (トラステッド プラットフォーム モジュール)	1
SD カード	UCS-SD-32G-S (UCS サーバ用 32 GB SD カード)	1
その他 (Miscellaneous)	UCSC-RAILF-M4 (レール キット)	1
	UCSC-HS-C220M4 (ヒート シンク)	2
	UCSC-MLOM-BLK (MLOM ブランク パネル)	1

項目	パート	数量
	UCSC-BBLKD-L (3.5 インチ HDD ブランク パネル)	2
	アクセサリ キット	1
	ベゼル	1

次のコンポーネントは現場での交換が可能です。

- ハード ディスク
- PSU (PSUs)
- 1 GB および 10 GB の SFP モジュール

注意：互換性の問題を回避するため、シスコはユニットに付属している SFP のみを使用することを推奨します。指定 SFP ポートである LAN 1 および LAN 2 に挿入する必要があります。SFP をユニットに挿入する際、異なるタイプの SFP を混在させないでください。2 個の 10 GB ファイバ SFP または 2 個の 1 GB 銅製 SFP を挿入します。

Return Material Authorization (RMA) を開始するには、

http://www.cisco.com/web/ordering/cs_info/or3/o32/Return_a_Product/WebReturns/product_Online_web_returns.html を参照してください。

関連資料

- Cisco VCS ソフトウェアのメンテナンスおよび操作の方法については、「[メンテナンスおよび操作ガイド](#)」ページの『Cisco TelePresence Video Communication Server Administrator Guide』を参照してください。
- Cisco VCS のクラスターの作成およびメンテナンスの方法については、「[コンフィギュレーション ガイド](#)」ページの『Cisco VCS Cluster Creation and Maintenance Deployment Guide』を参照してください。

トレーニング (Training)

トレーニングはオンラインおよび当社のトレーニング場所で利用できます。シスコが提供するすべてのトレーニングの詳細およびトレーニング オフィスの場所については、www.cisco.com/go/telepresencetraining を参照してください。

用語集

TelePresence 用語の用語集は <https://tp-tools-web01.cisco.com/start/glossary/> で入手できます。

設置の準備

環境および電源仕様

アプライアンス サーバの環境および電源仕様を表示するには、

http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/unified_computing/ucs/c/hw/C220M4/install/C220M4/spec.html を参照してください。

注：以前のアプライアンスから移行する場合は、CE1100 はいったん実行すると高効率でも、多くの電力を消費する可能性があることに注意してください。容量が大きく、電源投入時の突入電流が大きくなります。さらに、第一世代のアプライアンスや CE500 とは異なり、2 台の電源装置が搭載されています。詳細については、電源仕様を参照してください。

ユニットの開梱と設置の準備

以下の詳細については、http://www.cisco.com/en/US/docs/unified_computing/ucs/c/hw/C220/install/install.html を参照してください。

- サーバの開梱と点検
CE1100 は 10 GB ファイバ SFP 2 個と銅製 1 GB SFP 2 個が同梱されています。
- 設置に関するガイドライン。
- ラック要件。
- 機器の要件。
- スライド レールの調整範囲。

シリアル番号の確認

Cisco VCS アプライアンスは 2 個のシリアル番号を表示します。

- UCS のシリアル番号：
 - 形式は FCHxxxxxxx です。
 - ハードウェアの引き出しタブ、および CIMC Web インターフェイスに表示されます。
- アプリケーション/ソフトウェアのシリアル番号：
 - 形式は 52DNNNNN で、D は CE1100 シリーズ、N は数字です。
 - Cisco VCS の Web インターフェイスと引き出しタブの下面に表示され、SSH セッションで取得できます。
 - リリース キーとオプション キーを取得する場合に指定する必要があります。

インストール

ラックへのユニットの設置

ラックへのユニットの設置については、

http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/unified_computing/ucs/c/hw/C220M4/install/C220M4/install.html を参照してください。

SFP の挿入方法

注意：互換性の問題を回避するため、付属している SFP のみを使用することを推奨します。指定 SFP ポートである LAN 1 および LAN 2 に挿入する必要があります。

CE1100 ユニットは 2 個の 10 GB ファイバ Small Form-Factor Pluggable (SFP) トランシーバと 2 個の 1 GB 銅製 SFP が付属しています。SFP をユニットに挿入する際、異なるタイプの SFP を混在させないでください。2 個の 10 GB ファイバ SFP または 2 個の 1 GB 銅製 SFP を挿入します。

注：銅製 SFP を使用する場合、ユニットは 150 を超えるトラバーサル コールをサポートできません。追加のトラバーサル コール用のオプション キーをインストールしている場合でも同様です。

SFP は速度を自動ネゴシエートしないため、SFP が正しい速度でスイッチに接続されていることを確認してください。

- 銅製 SFP 用の 1 Gb 全二重。
- ファイバ SFP用の 10 Gb 全二重。

注：以前の DMZ の実装のように 100 Mb のみをサポートしている環境に CE1100 をインストールする場合は、1 Gb ~ 100 Mb への速度のネゴシエーションを処理するためのスイッチが必要です。

ユニットの接続および電源投入

最初に電源ケーブルをユニットに接続してから、接地されている AC 電源コンセントに接続します。

電源仕様については、

http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/unified_computing/ucs/c/hw/C220M4/install/C220M4/spec.html を参照してください。

注：Cisco Integrated Management Controller (CIMC) には、電力消費の追跡に使用する電力モニタリング ユーティリティがあります。

電源ボタンは前面パネルの左上隅にあります。

CE1100 アプライアンスを初めて電源に接続する際は、電源ボタンを押す前に、5 分間はスタンバイ モードのままにしておきます。この間に、オンボードの CIMC がブートし、セルフテストを準備し、ハードウェア チェックを実行し、電源の特性評価テストの準備ができるようになります。十分な時間を取らないと、次のブートまで電源特性評価テストが延期されます。

ユニットに電源を投入すると、システムがセルフテストを実行した後、ユニットが自動的に再起動します。再起動は予測される動作です。

初期電源特性評価テストのため、最初のブートには 5 分程度かかります。システムのそれ以降のブートにかかる時間は約 2 分です。

電源特性評価テストの実行時に「Performing Platform Characterization ...」というメッセージが表示されます。

以降のブートアップ時に電源特性評価テストを実行するとブート時に遅延が発生するため、これを無効にすることが重要です。この問題を回避するためにこのテストを無効にすることが、特にクラスタ化された環境では重要です。詳細については、*特別な問題を「トラブルシューティング」* (13 ページ) で参照してください。

電源ステータスを確認するには、電源ステータス LED を確認します (図 3 : Cisco TelePresence Video Communication Server ユニットの正面図 (13 ページ) を参照してください)。

- 消灯：サーバには AC 電力が供給されていません。
- オレンジ：サーバはスタンバイ電源モードです。CIMC と一部のマザーボード機能にだけ電力が供給されています。
- 緑：サーバは主電源モードです。すべてのサーバ コンポーネントに電力が供給されています。

設定 (Configure)

ここでは、Cisco VCS に接続し、初期設定を行うさまざまな方法について説明します。

Cisco VCS への接続

Cisco VCS を使用する前に、IPv4 および/または IPv6 アドレス、サブネット マスク、およびデフォルト ゲートウェイを設定する必要があります。どのアドレスを使用するかについては、ネットワーク管理者に相談してください。Cisco VCS には、スタティック IP アドレスを使用する必要があることに注意してください。

注： Cisco Integrated Management Controller (CIMC) ツールを使用する場合は、IP アドレスの追加が必要です。スタティック IP アドレスを使用することも、DHCP を使用して割り当てることもできます。

初期設定には、次のいずれかの方法を使用します。

- シリアル ケーブルを使用して Cisco VCS に PC を接続します (「シリアル ポートを使用した接続」 (8 ページ)、その後で「Cisco VCS の設定」 (10 ページ) を参照してください)。

- モニタおよびキーボードをユニットに直接接続します（「[KVM ポートを使用した接続](#)」（9 ページ）、その後で「[Cisco VCS の設定](#)」（10 ページ）を参照してください）。
- CIMC ポートを使用して接続します（「[CIMC ポートを使用した接続](#)」（9 ページ）、その後で「[CIMC を使用したシリアルへのリモート接続](#)」（10 ページ）を参照してください）。
- ネットワークの設定で許可されている場合は、デフォルト IP アドレス 192.168.0.100 に Web ブラウザを使用して接続します（「[Web インターフェイスの使用法](#)」（11 ページ）を参照してください）。

図 1：ポートを示した背面パネル

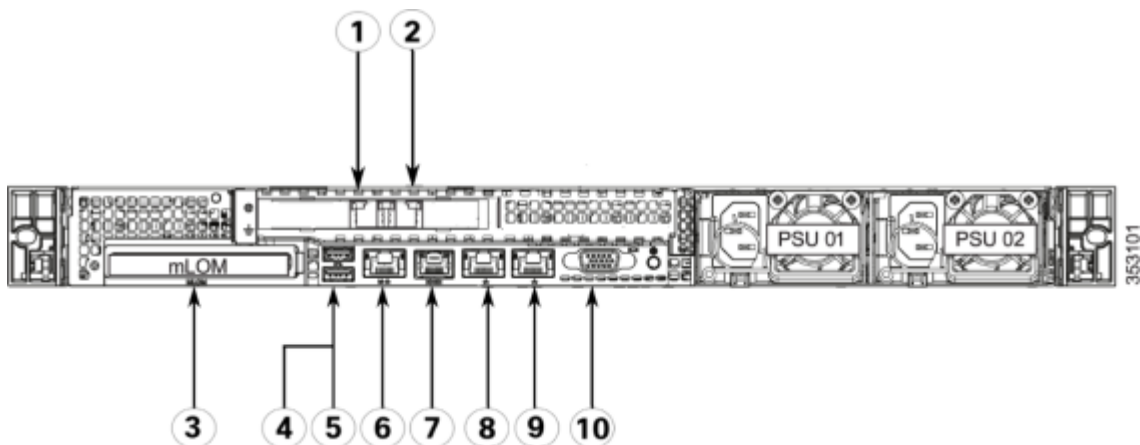


表 2：背面パネルのポート

1	LAN 1 (左 SFP ポート)
2	LAN 2 (右 SFP ポート)
3	モジュラ LAN-on-motherboard (MLOM) カード スロット
4	USB 3.0 ポート
5	USB 3.0 ポート
6	CIMC ポート
7	シリアル ポート (RJ-45 コネクタ)
8	LAN 3
9	LAN 4
10	VGA ビデオ ポート (DB-15)

図 2：KVM コネクタを示した前面パネル



表 3：前面パネルのポート

1	KVM コネクタ
---	----------

シリアル ポートを使用した接続

1. ユニット背面の LAN 1 ポートからネットワークにイーサネット LAN ケーブルを接続します。

LAN 1 ポートはユニットの背面パネルのデュアル ポート アダプタの左側のポートです (図 1：ポートを示した背面パネル (7 ページ) を参照してください)。

2. ユニット背面のシリアル ポートから PC のシリアル ポートにシリアル ケーブルを接続します (図 1：ポートを示した背面パネル (7 ページ) を参照してください)。

シリアル ケーブルにはクロスオーバー ケーブルを使用する必要があります。シリアル ケーブルのピン割り当ては次のとおりです。

オス RJ45 のピン	メス DB9 のピン
1	8
2	6
3 TXD	2
4 GND	5
5 GND	5
6 RXD	3
7	4
8	7

注：PC に DB9 ポートがない場合、DB9 から USB シリアル ポートへのアダプタが必要です。

3. PC のターミナル エミュレータ プログラム (たとえば PuTTY) を起動し、PC のシリアル ポートを使用するように次のように設定します。
 - ボー レート：115200 ビット/秒
 - データ ビット：8
 - パリティ：なし

- ストップ ビット：1
- フロー制御（ハードウェアおよびソフトウェア）：なし

注：使用後は、ターミナル エミュレータ セッションを開いたままにしないでください。セッションを開いていると、システムの再起動時に問題が発生する可能性があります。

KVM ポートを使用した接続

1. ユニット背面の LAN 1 ポートからネットワークにイーサネット LAN ケーブルを接続します。

LAN 1 ポートはデュアル ポート アダプタの左側のポートです（[図 1：ポートを示した背面パネル（7 ページ）](#) を参照してください）。

2. 次のいずれかを行います。

- 前面パネルの KVM コネクタに KVM アダプタを使用して USB キーボードと VGA モニタを接続します（[図 2：KVM コネクタを示した前面パネル（8 ページ）](#) を参照してください）。
- 背面パネルの USB ポートに USB キーボードを接続し、VGA ポートに VGA モニタを接続します（[「設定」（6 ページ）](#) を参照してください）。

CIMC ポートを使用した接続

Cisco Integrated Management Controller (CIMC) は、C シリーズ サーバ用の管理インターフェイスです。CIMC はサーバ内で実行し、サーバのリモート管理、設定、およびモニタリングを Web またはセキュア シェル (SSH) コマンドラインアクセスを使用して可能にします。

次の最小要件を満たすすべてのリモート ホストから CIMC ユーザ インターフェイスを起動し、サーバを管理できます。

- Java Runtime Environment 1.6 以降。
- HTTP および HTTPS 対応。
- Adobe Flash Player 10 以降。

CIMC を使用して Cisco VCS に接続するには、次の手順を実行します。

1. CE1100 の前面のコンソール ポートを使用して KVM を接続します。
2. モニターで切り替えます。
3. CE1100 アプライアンスで切り替えます。
4. モニターで起動プロセスを監視します。
5. F8 キーを押して、CIMC コンフィギュレーションのダイアログを表示し、管理インターフェイスの IP アドレスを設定します。

注：NIC モードおよび NIC 冗長性設定は、プリセット値の [専用 (Dedicated)] および [なし (None)] のままにすることを推奨します。

6. 変更を保存するには **F10** キーを押し、**Esc** キーを押して終了します。
7. コンソールへのアクセスに CIMC を使用する場合は、設定した IP アドレスを参照し、デフォルトのユーザ名およびパスワードとして **admin** および **password** を入力します。

CIMC の詳細については、「[CIMC コンフィギュレーション ガイド](#)」ページの『Cisco UCS C-Series Integrated Management Controller Configuration Guides』を参照してください。

CIMC を使用したシリアルへのリモートからの接続

注：シリアルポートにリモートからアクセスするには、Serial over LAN (SoL) を有効にする必要があります。これを有効にするには、CIMC インターフェイスで [サーバ (Server)] > [リモート プレゼンス (Remote Presence)] > [Serial Over LAN] を選択します。

1. 選択したエミュレータで SSH を使用して接続し、接続する CIMC IP アドレスを入力します。
2. デフォルトのユーザ名およびパスワードとして **admin** と **password** を入力し、**Enter** キーを押します。
3. **connect host** を入力し、**Enter** キーを押します。
4. これで、シリアルポートを使用して接続され、**cisco login:** プロンプトが表示されます。

これで、Cisco VCS の設定に進むことができます。

Cisco VCS の設定

システムが起動した直後である場合、PC のターミナル エミュレータ プログラムは Cisco VCS のスタートアップ情報を表示します。約 4 分後に、ログイン プロンプトが表示されます。シリアル ケーブルを接続したときに Cisco VCS がすでにオンになっている場合は、**Enter** キーを押してログイン プロンプトを表示します。

1. ユーザ名に **admin** と入力し、**Enter** キーを押します。
2. デフォルトパスワードの **TANDBERG** を入力し、**Enter** キーを押します。
インストール ウィザードのプロンプトが表示されます。
Run install wizard [n]:
3. **y** を入力し、**Enter** キーを押します。
4. インストール ウィザードによって表示されるプロンプトに従い、次を指定します。

- **admin** アカウントに使用するパスワード。

注：セキュリティ上の理由から、パスワードをデフォルトの **TANDBERG** から変更することを推奨します。

- IPv4、IPv6、または両方を使用するかどうか。
- Cisco VCS の LAN 1 の IP アドレス。
- Cisco VCS の LAN 1 IPv4 サブネット マスク (IPv4 を選択した場合) 。

- Cisco VCS のデフォルト ゲートウェイの IP アドレス。
- イーサネット速度。

注：デフォルト値の [自動 (Auto)] を使用します。

- Cisco VCS の管理に SSH を使用するかどうか。
5. ウィザードが終了した後に、次のメッセージが表示されます。

```
Setting other settings...OK.
```

```
The system must be restarted for new settings to take effect..
```

再起動のプロンプトが表示されます。

```
Restart Now?
```

y を入力し、Enter キーを押します。

6. 再起動した後に、Cisco VCS は使用できるようになります。Cisco VCS の Web インターフェイスへは、LAN 1 イーサネット ポートに割り当てられた IP アドレスを使用してアクセスできます。

注：セキュリティ上の理由から、デフォルトの **admin** アカウントと、**root** アカウントのパスワードをデフォルトの TANDBERG から変更することを推奨します (まだの場合)。

Web インターフェイスの使用方法

1. ブラウザ ウィンドウを開き、アドレス行に次のいずれかを入力します。
 - Cisco VCS の IP アドレス。
 - Cisco VCS の FQDN。[ログイン (Login)] ページが表示されます。
2. [管理者ログイン (Administrator Login)] を選択します。
3. 有効な管理者ユーザ名とパスワードを入力して、[ログイン (Login)] を選択します。
[概要 (Overview)] ページが表示されます。

Cisco VCS の Web インターフェイス上で使用可能な各設定オプションについては、オンライン ヘルプ、または『[Cisco TelePresence Video Communication Server Administrator Guide](#)』を参照してください。

コマンドライン インターフェイス (CLI) の使用方法

コマンドライン インターフェイスは、デフォルトで、SSH とシリアル ポートを介して利用できます。

1. SSH セッションを開始します。
2. Cisco VCS の IP アドレスまたは FQDN を入力します。

3. ユーザ名を `admin` とし、システム パスワードを使用してログインします。
ウェルカム メッセージが表示されます。

Cisco VCS で使用できる CLI コマンドの完全なリストについては、『Cisco TelePresence Video Communication Server Administrator Guide』を参照してください。

admin アカウントのパスワードの変更

admin アカウントのパスワードを Web インターフェイスを使用して変更するには、次のように行います。

1. 最初に、[ユーザ (Users)] > [管理者アカウント (Administrator accounts)] に移動します。
2. 管理者の名前の [表示/編集 (View/Edit)] をクリックします。
3. [パスワード (Password)] および [パスワードの確認 (Confirm password)] フィールドに新しいパスワードを入力し、[保存 (Save)] をクリックします。

[パスワードの強度 (Password strength)] ボックスには、選択したパスワードの安全性が表示されます。

CLI を使用して admin アカウントのパスワードを変更するには、次のように行います。

`xConfiguration SystemUnit Password` と入力します。

注： admin ユーザや他の管理者アカウント、または root アカウントのパスワードは空白には設定できません。

root アカウントのパスワードの変更

1. シリアル接続を使用し、既存のパスワードを使用して `root` としてログインします。
2. コマンド `passwd` を入力します。
新しいパスワードの入力を求められます。
3. 新しいパスワードを入力し、プロンプトが表示されたらパスワードを再入力します。
4. `exit` と入力して root アカウントからログアウトします。

その他のシステム設定の変更

次の設定も行う必要があります。

- Cisco VCS のシステム名。これは、システムを識別するために Cisco TelePresence Management Suite (Cisco TMS) で使用されます。これは、Web インターフェイスの [システム管理 (System administration)] ページ ([システム (System)] > [管理 (Administration)]) から設定できます。
- 自動ディスカバリ。同じネットワーク内に複数の Cisco VCS がある場合、そのうちのいくつかで自動検出を無効にできます。これは、Web インターフェイスの [H.323] ページ ([設定 (Configuration)] > [プロトコル (Protocols)] > [H.323]) から設定できます。

- DNS サーバアドレス (URI ダイヤルまたは完全修飾ドメイン名 (FQDN) を使用する場合)。これは、Web インターフェイスの [DNS] ページ ([システム (System)] > [DNS]) から設定できます。

これらの設定オプションの詳細については、オンライン ヘルプ、または『Cisco TelePresence Video Communication Server Administrator Guide』を参照してください。

更新とアップグレードの確認

Cisco VCS に最新のソフトウェアがインストールされているかどうかを確認するには、<http://software.cisco.com/download/navigator.html> にアクセスし、Cisco VCS に移動します。

アップグレードの方法については、『Cisco TelePresence Video Communication Server Administrator Guide』を参照してください。

注意：CE1100 はソフトウェア バージョン X8.6.1 以降のみをサポートします。ハードウェアをアップグレードする場合は、サポート対象外のソフトウェア バージョンにダウンロードしないでください。

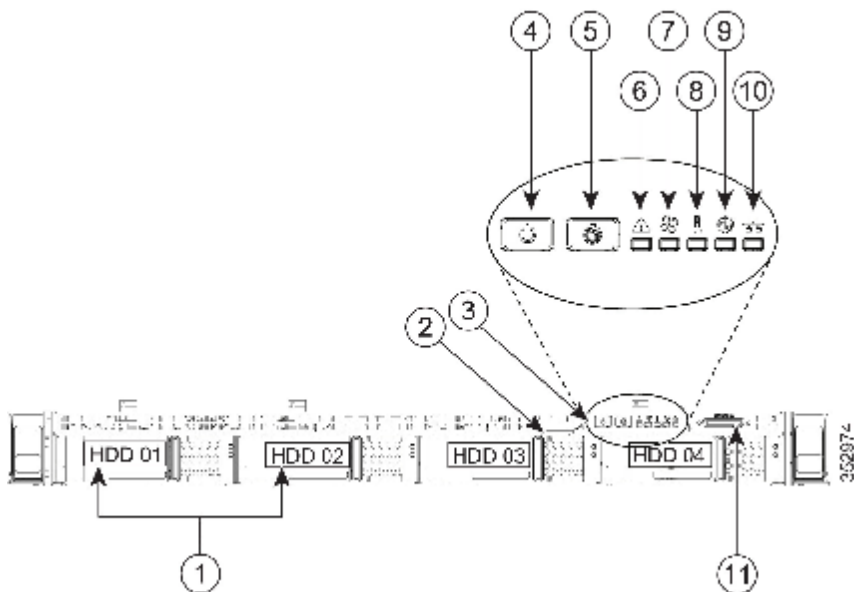
トラブルシューティング

LED とコンポーネントの位置

正面図

次に、ユニットの正面図と使用可能な LED およびコンポーネントのリストを示します。

図 3：Cisco TelePresence Video Communication Server ユニットの正面図

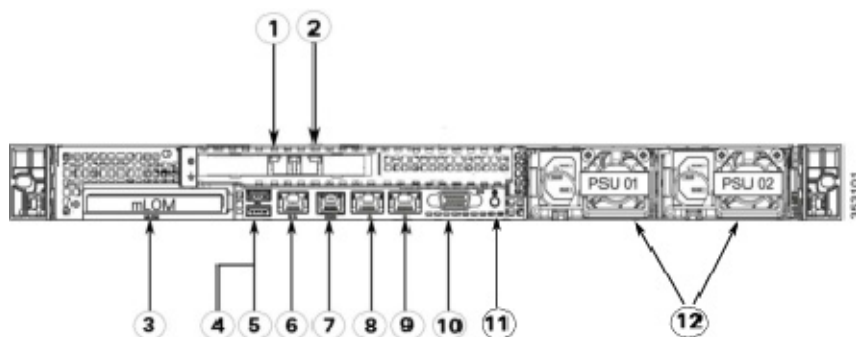


1	HD ドライブ アクティビティ/障害 LED
2	ID ボタン/LED
3	操作パネル ボタンと LED
4	電源ボタン/電源ステータス LED
5	ID ボタン/LED
6	システム ステータス LED
7	ファン ステータス LED
8	温度ステータス LED
9	電源装置ステータス LED
10	ネットワーク リンク アクティビティ LED
11	KVM コネクタ (USB/VGA 接続の場合)

背面図

次に、ユニットの背面図と使用可能な LED およびコンポーネントのリストを示します。

図 4 : Cisco TelePresence Video Communication Server ユニットの背面図



1	LAN 1
2	LAN 2
3	モジュラ LAN-on-motherboard (mLOM) カード スロット
4	USB 3.0 ポート
5	USB 3.0 ポート
6	1 Gb イーサネット専用管理ポート
7	シリアル ポート (RJ-45 コネクタ)
8	LAN 3
9	LAN 4
10	VGA ビデオ コネクタ
11	背面ユニット ID ボタン/LED
12	電源装置 (最大 2 台、1+1 の冗長性)

LED の状態の定義

LED の状態の定義については、

http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/unified_computing/ucs/c/hw/C220M4/install/C220M4/replace.html を参照してください。

内部リカバリパーティション (IRP) からのリセット

Cisco VCS CE1100 アプライアンスには、設定を工場出荷時設定へリセットするために使用できる SD カードがプリインストールされています。SD カードをリセットし、仮想ドライブを有効にしてから、Cisco Integrated Management Controller (CIMC) の KVM コンソールを使用して工場出荷時設定へのリセットに進みます。リセットが完了したら、仮想ドライブが無効になっていることをもう一度確認します。

注：工場出荷時設定へのリセットを開始するように CIMC を設定し、アクセスする必要があります。「[CIMC ポートを使用した接続](#)」 (9 ページ) を参照してください。

SD カードのリセットと仮想ドライブの有効化

1. CIMC にログインします。
2. [ストレージ (Storage)] > [Cisco FlexFlash] > [コントローラ情報 (Controller Info)] に移動します。
3. [アクション (Actions)] の下にある [FlexFlash コントローラのリセット (Reset FlexFlash Controller)] をクリックし、表示されたポップアップウィンドウで [はい (yes)] をクリックします。リセットすることによって、FlexFlash コントローラを正常な状態にします。
4. [仮想ドライブ情報 (Virtual Drive Info)] タブをクリックします。
5. [アクション (Actions)] の下にある [仮想ドライブの有効化/無効化 (Enable/Disable Virtual Drive(s))] をクリックします。
6. [VDS の有効/無効化 (Enable/Disable VDS)] ポップアップウィンドウで、[ハイパーバイザ (Hypervisor)] チェックボックスをオンにし、[保存 (Save)] をクリックします。

KVM コンソールを使用した出荷時設定へのリセット

1. CIMC のアイコンを使用して、**KVM コンソール**を起動します。
2. CE1100 に電源を投入し、プロンプトが表示されたら F2 キーを押して Setup と入力します。
3. [ブート オプション (Boot Options)] を選択し、[CiscoVD ハイパーバイザ (CiscoVD Hypervisor)] がオプションの 1 つとして表示されていることを確認します。

注：[CiscoVD ハイパーバイザ (CiscoVD Hypervisor)] が表示されない場合は、[UEI：組み込み EFI シェル (UEI: Built-in EFI Shell)] ブート オプションを選択して [CiscoVD ハイパーバイザ (CiscoVD Hypervisor)] に変更します。

4. 要求されたら、F6 キーを押して [ブート メニュー (Boot Menu)] に移動します。

5. オプションとして、[CiscoVD ハイパーバイザ (CiscoVD Hypervisor)] を選択します。
6. 要求されたら、`y` と入力し、`Enter` キーを押して工場出荷時設定へのリセットに進みます。
7. [可能な場合はリリース キーを保持する (keep any release keys if possible)] と尋ねられた場合は、`y` と入力し、`Enter` キーを押します。
8. `b` を入力して `Enter` キーを押し、リポートします。

工場出荷時設定へのリセット後の仮想ドライブの無効化

1. リポート時に `F2` キーを押し、`Setup` と入力します。
2. [ブート オプション (Boot Options)] で [CiscoVD ハイパーバイザ (CiscoVD Hypervisor)] を選択して無効にします。
3. `F10` キーを押して保存し、終了します。
4. システムのリポート時に [仮想ドライブ情報 (Virtual Drive Info)] タブに戻ります。[ストレージ (Storage)] の下の CIMC インターフェイスで、[ハイパーバイザ (Hypervisor)] チェックボックスをオフにして無効にします。

注：リセットが完了すると、Cisco VCS のデフォルトのログインとパスワードがデフォルトに戻ります。

工場出荷時設定へのリセットによるアラームの削除

工場出荷時設定へのリセットが完了した後も、Cisco VCS のシリアル番号およびリリース キーはインストールされたままですが、オプション キーはなくなります。

(注)

- SD カードでリリース キーが見つからない場合は、無効なリリース キーに関連するアラームが表示されます。Cisco Technical Assistant Center (TAC) にリリース キーを問い合わせ、もう一度適用してください。
- 以前にインストールしたオプション キーが使用できない場合は、Cisco TAC にお問い合わせください。お問い合わせ後、Web インターフェイスまたは CLI を使用して、オプション キーを追加します。

SD カードを使用して工場出荷時設定へのリセットを実行すると、設定リンクに関していくつかのアラームが Cisco VCS に表示される可能性があります。これらのエラーを解決するには、次の手順を実行します。

1. `admin` としてログインします。
2. ここで、`xcom defaultlinksadd` と入力します。
3. `Enter` キーを押します。

特定の問題

大規模展開において、アクティブなオプションが、「150 のトラバーサル コール」または「3750 の登録」しか表示しない

Cisco VCS の大規模な機能（500 のトラバーサル コールと 5000 の登録）を使用するには、CE1100 ユニットに 10 Gb のネットワーク接続が必要です。

電力特性評価チェックによるブート アップ時の遅延

電源特性評価テストは、CE1100 を接続して電源を投入したときに 1 回のみ実行されます。電源特性評価テストが実行し続けて、ブート時間にラグが発生する場合は、CIMC でこれが無効になっていることを確認します。次の手順を実行します。

1. CIMC にログインします（「[CIMC ポートを使用した接続](#)」（9 ページ）を参照してください）。
2. [サーバ (Server)] > [電源ポリシー (Power Policies)] > [電力制限の設定 (Power Cap Configurations)] に移動します。
3. [ブート時の電源特性 (Power Characterization at Boot)] チェックボックスがオフになっていることを確認します。
4. [変更内容を保存 (Save Changes)] をクリックします。

マニュアルの変更履歴

日付 (Date)

2015 年 11 月

説明

初版。

通告

テクニカル サポート

必要な情報をオンライン ヘルプから得られない場合は、<http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html> の Web サイトを参照してください。このサイトでは、次のことが可能です。

- 最新のソフトウェアを実行していることを確認できます。
- シスコ テクニカル サポート チームから支援が得られます。

問題を報告する前に、次の情報を揃えるようにしてください。

- 製品の識別情報（必要に応じてモデル番号、ファームウェア バージョン、ソフトウェア バージョンなど）
- お客様の連絡先となる電子メール アドレスまたは電話番号。
- 問題の詳しい説明。

販売終了のためサポートされない可能性のある Cisco TelePresence 製品のリストを表示するには、http://www.cisco.com/en/US/products/prod_end_of_life.html にアクセスし、「TelePresence」セクションまでスクロールダウンしてください。

アクセシビリティ通知

シスコは、利用しやすい製品およびテクノロジーの設計および提供に取り組んでいます。

Cisco TelePresence Video Communication Server の Voluntary Product Accessibility Template (VPAT) は、以下で入手可能です。

http://www.cisco.com/web/about/responsibility/accessibility/legal_regulatory/vpats.html#telepresence

アクセシビリティの詳細については、次を参照してください。

www.cisco.com/web/about/responsibility/accessibility/index.html

シスコの法的情報

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

FCC クラス A 準拠装置に関する記述：この装置はテスト済みであり、FCC ルール Part 15 に規定された仕様のクラス A デジタル装置の制限に準拠していることが確認済みです。これらの制限は、商業環境で装置を使用したときに、干渉を防止する適切な保護を規定しています。この装置は、無線周波エネルギーを生成、使用、または放射する可能性があり、この装置のマニュアルに記載された指示に従って設置および使用しなかった場合、ラジオおよびテレビの受信障害が起こることがあります。住宅地でこの装置を使用すると、干渉を引き起こす可能性があります。その場合には、ユーザ側の負担で干渉防止措置を講じる必要があります。

FCC クラス B 準拠装置に関する記述：この装置はテスト済みであり、FCC ルール Part 15 に規定された仕様のクラス B デジタル装置の制限に準拠していることが確認済みです。これらの制限は、住宅地で使用したときに、干渉を防止する適切な保護を規定しています。この装置は、無線周波エネルギーを生成、使用、または放射する可能性があり、指示に従って設置および使用しなかった場合、ラジオおよびテレビの受信障害が起こることがあります。ただし、特定の設置条件において干渉が起きないことを保証するものではありません。装置がラジオまたはテレビ受信に干渉する場合には、次の方法で干渉が起きないようにしてください。干渉しているかどうかは、装置の電源のオン/オフによって判断できます。

- 受信アンテナの向きを変えるか、場所を移動します。
- 装置と受信機との距離を離します。
- 受信機と別の回路にあるコンセントに装置を接続します。
- 販売業者またはラジオやテレビに詳しい技術者に連絡します。

シスコでは、この製品の変更または改造を認めていません。変更または改造した場合には、FCC 認定が無効になり、さらに製品を操作する権限を失うこととなります。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved.

Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

ハード コピーおよびソフト コピーの複製は公式版とみなされません。最新版はオンライン版を参照してください。

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号は当社の Web サイト (www.cisco.com/go/offices) をご覧ください。

© 2015 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

シスコの商標または登録商標

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. シスコの商標の一覧は www.cisco.com/web/JP/trademark_statement.html に掲載されています。Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company.(1110R)